

## 第4回 交流部会（11/26） 議事録要旨

観光インフォメーションについては、情報を整理し、情報発信が必要であり、競合ではなく協調して情報発信していく仕組みづくりが必要。

市町村と連携した外国語版も含め観光パンフが必要。

十勝の観光ガイドの総合版としてナビにも運用可能な「マイルート十勝」を作成し、十勝観光連盟に運用していただくこととしているが、発信はしやすいけど利用はしづらいので、ターゲットを絞り込み情報発信することが重要。

旅行雑誌には、必ず「おすすめスポット」があり、豆知識が掲載されているが、総花的では駄目で目的別に考える必要がある。

外から来る人にわかりやすく紹介することが大事であり、主流の情報源がインターネットであるので、ネットでの情報発信が重要である。

行政の情報発信だけではどうしても限界があり、旅行者が初めてか、リピーターかによって案内するところも違ってくる。引き出しをたくさん持ち、加工しないと駄目であるが、行政がアンケート調査を行い選ばれたものを公表するのも問題があり、難しいのではないかな。

飲食店については、オーダーランキングがあるとお客様の興味を引きおもしろいのではないかな。

ガイドブックやインターネットは、手書きレベルと考えたほうがよい。また、すべての人にたくさんの情報を伝えることは無理であり、情報の多層性を考えるべきである。

穴場情報も含め、安売りしない情報も大切だが、一方で大量の人を招き入れる情報も必要。

柱（幹）になる観光ルートをつくり、枝葉を広げていくことが大切。

クチコミ情報を重視し、インターネットや雑誌などで新鮮な観光情報を保つ情報発信が必要。

帯広の観光ポスターのキャッチコピーも「まっすぐ北海道、ゆったり滞在できるとかち帯広へいらっしやい」とし、観光情報はネットが主流なので紙媒体の観光パンフをPDFとするのと良い。

民間が選ぶレストランガイドや十勝の食料自給率をPRするとインパクトがある。

ツアー造成を大手旅行会社に依頼しても難しい。帯広空港は使いづらく団体旅行は組みづらい状況にある。東京・帯広のツアー航空運賃の最低卸価格は片道冬場11,000円、夏場12,000円であるが、旅行業者の仕入れ値は新千歳も帯広もあまり変わりがなく、新千歳の最低運賃期間が長いだけである。

観光行政の視野に立てば、航空機の着陸料を減免することも必要ではないか。道内主要空港でダブルトラッキング（東京線2社運航）になっていないのは帯広だけである。

帯広空港は東京便1/3、チャーター便1/2を減免しているが、国の空港は3割減免である。

帯広のダブルトラッキングの展望については、あまり要素がなく難しい状況であるが、食関連のメッセやコンベンションにより人の流れを多くしてはどうか。ダブル化したから人が動き、料金が下がるというのではなく、ダブル化するだけの人の動きが先である。

交通アクセスは重要な要素であり、ダブルトラッキングは欠かせない。

以 上